

阪神支部25春闘討論集会



2025. 2. 25
NO. 684号

全港湾関西地方
阪神支部
大阪市港区築港
1-12-27

06-6574-8424
078-303-0800

1月18・19日に神戸ホテルフールツフラワーにおいて阪神支部25春闘討論集会を開催し、執行部18名、分会から70名、来賓として全港湾中央本部から松永書記長、関西地方本部からは畠山委員長と樋口書記長の3名を招き、合計91名が参加しました。

まず初めに道下副委員長より挨拶があり、昨年の震災や年末年始の例外荷役についてふれ「24春闘では小幅な賃上げが出来たがまだまだ生活実態に追い付いていない。活発な意見をいただいて、大幅賃上げへの更なる活路を見出したい」と話しました。

座長には執行部より池口執行委員と国際コンテナ輸送分会の河野分会員が選出され議事を進行しました。

広がる格差



河野委員長が代表挨拶に立ち、昨年から自然災害や航空機事故、物価上昇等

にふれ「豊洲市場で初売りのマグロが2億7000万円で競り落とされたことや、山形の高級サクランボが140万円だったことに驚いた。一方で東京の公園で無料の炊き出しに600名を超える人数が並んだ記事を見た。

貧富の格差は今に始まったことではないが、近年はこれまで以上に格差が広がっていると感じている。思いついてみるとアベノミクスで富裕層の富が広く滴り落ちるトリクルダウンという言葉があったが所詮は夢物語であった。

経済が好循環するためには、実質賃金がマイナスのままではなくプラスへと転嫁していかなければならない。そのためには労働生産性と企業が儲けを賃金に回す労働分配率の向上や輸出競争力の強化が急務だ」と強く訴えかけました。

また、昨年の港湾春闘についても言及し「物価上昇に見合わないわずかな賃上げとなったことに納得できない」と感情をあらわにしました。

大企業は社会的責務を履行せよ

さらに「経団連が今年の春闘に向けた基本方針で、賃上げの勢いは社会全体に波及させ定着させることが社会的責務だと位置づける

として、中小企業や非正規労働者の賃上げを重視して労務費や原材料費などの価格転嫁を推進すると言っている。しかし、問題はその施策が本当に実行されたとしても社会全体に波及させなければ意味がない。そのためにも、国が経団連をはじめとする大企業に社会的責任を果たさせ、応分の税負担を課し、政治の責任で低賃金や格差の構造を変え改革に踏み出さなければならぬ。特に適切な価格転嫁を推進させ、賃金が上がりやすい慣習の構築は待たないである。

誰もが生活改善になる大幅賃上げと給与の底上げ、これを実現するために25春闘ではこれまで以上に活発な取り組みを進めていきたい」と熱く話されました。

次に関西地方の畠山委員長よりトラック海コン関係の情勢や、今後の政府の動向を資料を用いて分かりやすく解説し「情勢について前途が悲観的なことが多い昨今だが、私たちの暮らしはきつくなる一方なので何とかして今春闘で成果を勝ち取れるよう、討論集会で活発な議論を行い、実りのある春闘になるよう祈念したい」と話しました。

その後、全港湾中央本部の松永書記長より挨拶では、24秋年末闘争の解説や課題、全国港湾の動き、25

春闘方針に関して説明し「今討論集会での活発な議論を中央委員会に報告してもらい、25春闘をたたかえる要求を作っていく」と呼びかけました。

続いて関西地方の樋口書記長より地本としての25春闘の方針と説明が行われ、久保田書記長による阪神支部25春闘方針具体化(案)の提案があり、議事を中断し休会となりました。

2日目は日興サービス分会が闘争報告を行い、質疑応答に入りました。今年は8名の方から質疑があり、各担当者から答弁の後、河野委員長より総括答弁がありました。

執行委員会を経て執行部より「春闘要求4万円以上」の25春闘方針案が提案され、採択されました。

機関紙コンクール



「トレーラー」が金賞に輝く

機関紙コンクールでは5



団結して大幅賃上げを勝ち取ろう!

分会よりエントリーがあり、金賞が日本コンテナ輸送分会の「トレーラー」、銀賞に日興サービス分会の「日興ニュース」、銅賞に大運分会の「潮」、奨励賞に全日検神戸分会の「検数労働」と新神戸セキユリティ分会の「SKS分会ニュース」が選ばれました。

最後に松本副委員長より閉会の挨拶があり「皆さんの活発な議論で25春闘をたたかう運動方針が確立された。この意見を地本と中央に反映させ、一層団結を深めて25春闘をたたかていく」と決意表明し、河野委員長の手で団結ガンバローで閉会しました。

執行委員 山本 英生

発言

私が働くO S T物流の主

な荷主は住友化学である。住友化学の会長であり、日本経団連の会長でもある十倉氏は定例会見で「パートナーシップ構築宣言の実効性の向上が非常に大事である」「労務費を含む適切な価格転嫁が重要という認識を社会的規範として普及させていく必要がある」と宣言している。

しかし、住友化学の製品を末端で輸送している私たちO S T物流労働者の24春闘は物価上昇に到底及ばず、例年通りであった。宣言を執行していないにもかかわらず、賃上げ優遇税制の恩恵だけ受けることは社会的規範に反するのではないか。

コンプライアンス遵守への厳しい目が向けられる中、大企業によるこうした実態を広く社会に知らしめ、地域も巻き込む国民春闘として具体化し、支部として組織的に取り組んでもらうことを要望する。

O S T物流分会

入江 次郎



南海トラフ地震の防災対策について、港湾の労働組合として十分に活動が行われていないと感じる。

南海トラフ地震は今後30年以内に80%の確率で発生すると予測されているが、安全衛生委員会だけではなく、現業部会や全分会、組合員が一体となって取り組むべき。具体的には、各分会での防災対策や不足している対策について情報交換を行い、専門家による学習会を実施するなど、知見を深める活動が重要となる。支部として防災にもっと取り組み、対策を強化していく必要がある。

後藤回漕店分会

神田 光稀



暑さ対策のために個人の出費も増加しているため、もし手当が支給されればその補助にもなる。再度、検討して地本・中央にも上げてもらいたい。

後藤回漕店分会

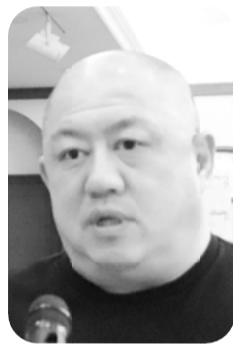
先野 圭介



半年前までは3名の分会であったが、7月に新たに4名の仲間が増えた。経緯としては、会社以後継問題があり、このままでは大変なことになると思い分会に加入した。加入したことにより、自分たちの労働環境が劣悪だったことが判明し、委員長をはじめ執行部の助けで一気に改善された。まだまだ問題は残っているが頑張っていく。

川崎コンテナ運輸分会

平田 栄



日7時間、週35時間を統一要求事項に明記し、取り入れてもらいたい。

大運分会 上田 周一



昨年分会結成50周年記念レセプションに参列いただき、祝辞と祝電メッセージを送ってください。また、アイデアをいただいた久保田書記長と支部の方がたには分会を代表して感謝申し上げます。

K I L I N Eの移転に関して、工事完了が2025年度となっているが、情報がなかなか入ってこない。具体的な情報やどのような動線になるのか、移転した後の構想はどうなっているのかなど、支部からも情報提供の働きかけをしてもらいたい。

日本高速輸送分会

山畑 聡



して活動を活性化させやすく、意義のあることかと思う。しかし、発信する内容に関してには組合員が顔を出して情報を発信することになると誹謗中傷や私生活がさらされるような事態になるのも現代のSNSではついて回る。

その対策や守るための施策などがあると組合員としても安心して情報発信が出来ると思うので、その点も踏まえて運用方法を考えてもらいたい。

S N Sを活用して組織拡大につながれば青年部としても活動が活性化していくのでは是非検討してもらいたい。

大運分会 村尾 祐紀



1月11日に分会内で協議した結果、25春闘の要求額を3万円と取りまとめた。しかし、上部団体の要求金額が上回るのであれば上部団体の運動方針に沿って運動を展開したい。

K I L I N E移転に関して、2025年に完了するとの発表があるが、現状のポートアイランドにおける待機時間の問題が解決されておらず、具体的な改善策は講じられていない。

また、移転に伴い神戸港のコンテナの約40%が集約され、さらなる渋滞が予測される。分会だけで活動するには限界があるため、支部としても対応してもらいたい。

関西地本25春闘討論集会及び臨時大会

及び臨時大会

1月28日、大阪港湾労働者福祉センターにおいて、関西地本25春闘討論集会および関西地本第80回臨時大会が総数85名(阪神支部42名)で開催されました。

河野副委員長による開会の挨拶の後、

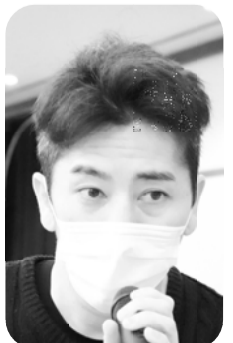
座長には建設支部の大月氏、神戸支部の藪田氏が選出されました。



地本代表挨拶で畠山委員長より情勢について「実質賃金は昨年6月まで27か月連続のマイナス。7月は一時金の評価もあってプラスに転じたが8月から11月までマイナスが続いており、物価高騰に賃金が追い付いていない現状が浮き彫りになっている。今年度は雇用保険や育児



日本コンテナ輸送分会 清田 浩平



介護休業法で多くの制度改正が実施される。会社員が多様な働き方を支援するのが目的で家計や職場に根差した議論が必要になる。

3面に続く

2面からの続き

25春闘をどうたたかおうか。古くて新しい問題に港湾運輸産業は大変苦しんでおり、トラック産業では24問題を契機に物流が見直されつつある。

昨年5月に新物流2法（「物流総合効率化法」「貨物自動車運送事業法」）が改正され、今年4月から施行される。

港湾にも関係し、まだ効果は出ていないが規定的処置が政府で進められており、独禁法や物流特殊指定に基づく荷主の優越的地位の取り締まりが増加し、通常国会では下請法の改正や事業の更新制度は成立する見通しである。

大幅賃金を勝ち取るためには毅然とした態度を見せなければならぬ。各職場で粘り強くたたかっていると話されました。

来賓挨拶では全国港湾の玉田書記長から「存じかと思うが港湾の労働運動の発祥の地は大阪であり、皆さんの先輩たちが全港湾の基礎をつくり、そこから全国に港湾労働者の組織が作られていき、様ざまなたたかいがあり統一要求、統一交渉という中で全国港湾ができ、職場のたたかいがあつて組織が成立している。そのDNAを引き継



要求し、たたかうことで賃上げを勝ち取ろう！

ぐ全港湾関西地方の誇りを持ち、一緒になって頑張ってもらいたい」と話され、作成されたレジュメをもとに25港湾春闘方針(案)、産別要求(案)の説明がありました。

次に、樋口書記長より地本25春闘方針の提案があり少子高齢化、労働人材確保、24年問題、内部留保、国際競争、大阪万博などの問題を取り上げました。

さらに阪神淡路大震災から30年であること、ふれ「万博よりも災害対策等にお金を使う政治に変えていかなければならない」と話しました。

質疑では多くの発言があり、阪神支部からは3名が発言しました。その後、要求額「4万円以上」などの

まとめが確認されました。閉会の挨拶で確水副委員長は「賃上げは自ら要求し、たたかい勝ち取ることに意味がある」と話され、最後に畠山委員長の団結ガンバローで閉会しました。

臨時大会

討論集会終了後には、関西地本第80回臨時大会が行われました。

臨時大会開催に至った経緯は、組合員減少による財政難の対応として一昨年から進めてきた書記局員の雇用問題がありました。

協議を進めるなか地本財政に使途不明金が発生し、元書記局員や金融機関とも確認してきましたが、正常

全港湾第46回中央委員会

前進する全港湾の春闘に

1月30・31日、豊橋のシパレスにて第46回中央委員会が開催されました。

開会の挨拶に立った鈴木龍一副委員長は「25春闘は組合員とその家族の生活を守るために、大幅賃金を勝ち取る根幹的なたたかいを確立させなければならぬ。そのためには30年間、保守・財界がつくってきた格差を解消しなければならぬ。活発な議論で方針を確立させてもらいたい」と参加者に呼びかけました。



鈴木委員長

資格審査で資格者47名、中央本部20名中19名、傍聴40名、総勢106名の参加が報告され、議長団には東北の佐々木氏、日本海の北村氏が選出され議事を進行しました。

な処理がされていないことが発覚し、雇用継続不可と判断せざるを得なくなつたことから、組合員資格の除名・抹消の決議をとるための開催となりました。

大会では約一年半の詳細な経過報告と除名の提案がされ、提案に対する批判的な意見も無く満場一致で提案が可決されました。

大会最後には、畠山執行委員長から「組合員の皆さんには、大きな不安とご迷惑をかける事態を生んだことに地本を代表し謝罪し、組織運営の正常化に向け邁進する」と力強く訴えられました。

教宣部 遠藤 佑助

にふれ「戦争の反省を生かして平和憲法を守らなければならぬ」とし、奪われた30年といわれる状況について「大企業や外国の圧力で賃金抑制やカジュアル労働が推進され、労働組合は弱体化し、要求を遠慮する社会に引つ張られた。労働者の賃金・条件の引上げは労働組合にしかできないが、大手の組合はストを否定しする有様だ」とし、そんな社会の雰囲気を変えていきたいと訴えました。

さらに「25春闘ではそれらを取り戻すために皆が意見を出し、たたかう前線・現場に団結を見せつける中央委員会にしてもらいたい」と呼びかけました。

松永書記長から「24年秋年末闘争の経過と総括」と「25春闘方針案」について「25春闘は全ての課題に人員不足対策を貫く考えで臨む」とし、産別協定については「緩和や合理化といった提案に反対し断固受け入れない」と力強く提案しました。

全国闘争報告では名古屋支部日興サーブス分会の上條分会長が経過報告と全国の仲間への更なる支援を呼びかけました。

討論では阪神支部から久保田書記長が年末年始の例外荷役の中央交渉について「全国港湾の『年末年始は休みだ』という本来あるべき港湾労働者のスタンスで交渉に臨んだことを理解したうえで言わせてもらおうが、例外荷役期間就労条件の要求(※)はハードルが高く、労使の落としどころがなく決裂し、不稼働となった。結果的に精励金の増額にもつながらず、明確な定義のない『ライフライン』に関わる緊急貨物の作業』は各地区港湾で協議することとし、中途半端な状態で丸投げされた。これは各地区の混乱と迷走を生んだ。中央交渉の時点で細部までの協議が必要であった。今回の取り扱いに關しての反省点や、混迷感のあるなかで全港湾、全国港湾として、どう春闘をたたかうのか」と厳しく投げかけました。

その後、井ノ元副委員長は選挙闘争について。松本副委員長は特定技能について発言がありました。

総括答弁で鈴木委員長は「各地の問題・課題に真剣に取り組みいく」とし、「この国は要求にこたえられない。政治を変えていかねばならない。選挙闘争についても中央で検討していく」と答弁し、「中央委員会での発言を重

き港湾労働者のスタンスで交渉に臨んだことを理解したうえで言わせてもらおうが、例外荷役期間就労条件の要求(※)はハードルが高く、労使の落としどころがなく決裂し、不稼働となった。結果的に精励金の増額にもつながらず、明確な定義のない『ライフライン』に関わる緊急貨物の作業』は各地区港湾で協議することとし、中途半端な状態で丸投げされた。これは各地区の混乱と迷走を生んだ。中央交渉の時点で細部までの協議が必要であった。今回の取り扱いに關しての反省点や、混迷感のあるなかで全港湾、全国港湾として、どう春闘をたたかうのか」と厳しく投げかけました。



全国から106名が参加し開催された

く受けとめ、前進する全港湾の春闘にしていく」と締めくくりました。

港湾の「軍事拠点化・兵站基地化」に反対する特別決議が満場一致で採択され、畠山副委員長の閉会の挨拶ののち、鈴木委員長の団結ガンバローで散会しました。

副委員長 道下 拓也

※ 例外荷役期間就労条件要求(ペナルティ)

(現行) 一就労当たりの賃金構成率350%(精励金15,000円含む)

(要求) 一就労当たりの賃金構成率500%

全国港湾第17回中央委員会

25春闘方針と要求を確立



河野委員長が議長団を務めた

れに分配することが重要である」とし、全国の組合員と団結して体制的合理化に絶対反対することを力強く述べました。

続いて、玉田書記長は第一号から第三号議案「24秋年末闘争の主な取り組み(案)」「25春闘方針(案)」「25春闘要求書(案)」について提案を行いました。

重点項目として「大幅賃上げで生活を乗り越える」「産別制度賃金の引上げ」「労働時間短縮と時間外労働の規制」「港湾労働の安定・生活保障に係る基金の拡充」「政府の施策で進む港湾の合理化と職域の確保・拡大の取組み」を挙げました。

その後、質疑討論に入り一日目を終了しました。二日目は昨日に続き質疑討論に入る前に、各単組から25春闘に対するたたかい方、要求内容について報告を受けました。

全港湾からは、1月30日31日の中央委員会で確認された春闘方針に基づき、「賃上げ要求として4万円を決定し、企業と荷主に対する要求額として確認したこと。到達闘争においても

未到達の分会・支部・地方は全力でたたかうことを確

認した」と報告しました。その後、質疑討論を再開し発言者は両日あわせて15人となり、積極的に討論が行われました。

いづれも方針案、要求書案について賛成の立場から

活気ある活動の原動力に

2月1日、梅田「たよし曾根崎店」にて大阪・神戸ブロック、青年部の合同旗開きが行われ、今年一年の活動を始める懇親会として、支部執行委員も含め総勢21名が集まりました。

打ち合わせなく開会挨拶をふられた大阪ブロックの皆田ブロック長は、動揺しながらも「今回は初めて青年部も合流した。幅広い年齢層が交流できる機会は貴重で、今後の活動にいかそ

う」と激励し、乾杯の音頭で始めました。今回が初参加の人もお酒が進むにつれ口調も滑らかになり、職場の状況や組合に入ってから良かった点やどんな変化が起こったかなど、

体験談も交え語り合いました。また他愛もない世間話など、時には真剣に、時には笑い合いながら会話が弾みま

した。この交流を通じて参加者からは「今後の活

の発言や補強意見が出されました。

全員の賛成で方針・要求を確立し、最後に竹内中央執行委員長の団結カンパロ

ーで散会となりました。副委員長 松本 栄二

動への意欲が高まり、協力し合ってすすめる労働運動への結束も強まったと感じられる」「同じような境遇の職場もあり、参考になった」など感想がありました。

意見交換や労働運動に対する活動の在り方など、普段なかなかできない貴重な交流ができたと思います。また1次会だけでは満足

できず突発的な2次会の開催にも関わらず多くの方が

参加し、情報交換やアドバ

イスなど分会の今後の運動や個人的な話題まで共有でき、組織の結束を一層深める充実した懇親会になり、今後の活気ある活動の原動力になる旗開きになりました。



分かるかな？

懸賞クイズ



【問題】

山形県でお客様が来た時に注文する出前の定番はなんですか？

1. ピザ
2. 寿司
3. ラーメン

683号は1名の方から応募があり、正解でした。

以下の方にQUOカードを進呈します。

田中 俊行 (内外フォワーディング)

684号の締め切り日は3月14日(金)です。ふるってご応募ください。

神戸ブロック 春闘準備着々と

2月25日からスタートする25春闘に向け、ブロックでも準備を進めてきました。

神戸ブロックでは「見える聞こえる春闘宣伝」の一環として、横断幕の作成や春闘ビラのセット作業を行



つています。

横断幕は「誰もが見て分りやすく」をテーマに、毎年ブロック委員から文言葉を募集して決定します。

作成にあたっては、下地の塗装から耐久・耐水性を考慮し、すべて手作りにこだわっています。

今回も無事完成し、NCY分会と大洋分会の協力職場に掲示していただきます。是非ご覧ください。

春闘ビラについては、3000枚を3つ折りにし、テッシュにセットしていくという地味な作業ですが、阪神支部の伝統である宣伝行動を成功させるべく準備万端です。

神戸ブロック 高野 良太